

ライフサポートねりま 大村 優慈/理学療法士

功 績 性格的に対応困難で、かつ褥瘡があった利用者さんへのアプローチのきっかけを作ってくれ、チームで取り組んだ結果、褥瘡も完治し、笑顔で退所まで繋げた。また、ご家族から感謝状をいただき、スタッフ全員のやりがいに繋がった功績。

推 薦 者 櫻井 真由美

推 薦 理 由 入所時から対応に苦慮する利用者さんに対し、介入の突破口を開いてくれた大村さんを理事長賞に推薦させていただきます。今回のような事例一つ一つが職員のやりがいに繋がっていることは間違いなく、成功事例が何よりの成長に繋がるので、今後とも自信をもって日々のケアに取り組んでいけるようチームケアを進めていきます。

内 容

Y・K様 男性 80代 介護度4

性格はこだわりが強く頑固者で、入所時は職員に対し怒鳴られることも多く、介護職員や看護師もなかなか介入できない状況でした。また、右脚第5趾裏に褥瘡があり、足を床につけられないほどの痛みがありました。

介護職員や看護師が対応に困惑していたところ、理学療法士の大村は利用者さんとの距離を少しずつ縮めていくようアプローチに工夫していきました。

血管が弱いうえに拘縮も強く、特に股関節も曲がらないので背もたれを緩めないでポジショニングが悪くなるので、ご本人に合った車いすを見直し、別の車いすを手配しました。痛みがあるので、一つ一つ確認しながら対応法を考えアプローチしていきました。

大村が関わり、知りえた情報をフロア内でも共有し、褥瘡を治さないとリハビリが行えないことから、除圧と車いす上でのポジショニングを優先とし、共通認識としました。看護は医師と連携のもと褥瘡処置、介護職員は日常生活上でのケアと、栄養面でも栄養科と連携し、各スタッフが役割分担することでチームアプローチできるようになっていきました。

大村がアプローチのきっかけを作ってくれたことから、結果として褥瘡完治することが出来ました。入所時は怒鳴られていたY・Kさんでしたが、ADLも上がり、生活面では趣味であった将棋を笑顔で他の利用者さんと楽しめるまでに回復されました。その満面の笑顔にスタッフだけでなく、ご家族も大変喜んで下さいました。

退所日に娘さんから感謝のお手紙をいただき、スタッフ全員で喜びを共有することが出来ました。私たちの日頃のチームケアが、このように利用者さんご家族に満足いただけ、やりがいや自信に繋がりました。